

- ナシのジョイント仕立ては省力化と早期多収にすぐれた整枝方法として導入が進んでいる。
- とくに栽培技術が浅く、経営開始直後に低所得期間が発生しやすい新規就農者向けの技術として期待されている。
- そこで、この仕立て方の導入に積極的な新規就農者に対する支援を行い、基本樹形を作り上げることができた。

具体的な成果

1. ジョイント仕立て樹形の完成

- 予定よりも1年ごとになってしまったが、ジョイント仕立ての基本樹形を作り上げることができた。



- 1本化された主枝から結果枝を発生させることができる体制を整えることができ、この仕立て方法におけるモデル的な優良園を作り上げることができた。

2. ジョイント仕立てのPR

- 町農村青年会議のメンバーの協力を得て接ぎ木作業を行ったことで、ジョイント仕立てのPRになるとともに、技術指導も行うことができた。



- 実際に作業を体験することでジョイント仕立てに対する興味もさらに深まり、その後、この仕立て方法に取り組みたいとする意向を示す農業者が出てきた。

普及員の活動

【平成23年】

- 1年間で接ぎ木（ジョイント）ができるだけの新梢伸長量を確保するため、苗木1本1本に添え竹を取り付け、新梢の伸長にあわせて順次誘引するよう指導。

【平成24年】

- 前年度の育苗途中に台風による枝の折損被害が生じたことから、そこからの復旧方法を指導。
- 苗木同士の接ぎ木（ジョイント）方法について指導。 湯梨浜町農村青年会議の会員に協力を願い、JA職員や普及所も応援して園芸試験場担当者の指導を受けながら実施。

【平成25年】

- せん定方法の簡略化も狙って腋花芽利用の長果枝せん定を選択し、前提となる新梢誘引の実施を指導。
- せん定講習会を実施し、樹体ジョイント仕立て特有のせん定方法について、理解を深めることに努めた。

普及員だからできたこと

1. 最新の情報収集と活用

- 鳥取県内で育成されたオリジナル新品種での取り組みであることから、試験研究機関による最新の研究結果や、他地区における実施事例を収集し、成功事例を作り上げることができた。